

札幌農学校と「日本初の高等農業専門学校」という評価

— 北海道大学の源流の名誉をめぐって —

序論

北海道大学の前身である札幌農学校は、観光名所である札幌市時計台の解説パネルや各種案内文でしばしば「日本初の高等農業専門学校」と紹介されている。この表現は、札幌農学校の歴史的意義を簡潔に示すキャッチフレーズとして優れている。

一方で、「専門学校」という語が1903年明治36年の専門学校令以後に制度上の用語として整備された事実を踏まえると、厳密な制度分類との関係が問題となる。本稿の目的は、この表現を単なる誇張として退けるのではなく、教育史上の整理と史料に基づいて位置づけ直し、札幌農学校の「名誉ある呼称」としてどこまで正当化しうるかを検討することにある。

一、札幌農学校の創設と性格

札幌農学校は、1876年明治9年に札幌学校を改組して設立された。開拓使は、既に東京に設置していた開拓使仮学校を札幌に移し札幌学校と改称したのち、北海道開拓のための農業指導者養成を目的として、札幌農学校を新たに開校したとされる¹。このとき開拓使長官黒田清隆は、アメリカ・マサチューセッツ農科大学学長ウィリアム・S・クラークを教頭として招聘し、英語による授業、近代的農学・自然科学教育、キリスト教的道徳教育を組み合わせた教育を行った。日本大百科全書は、クラークを迎えたことにより「日本最初の高等農業教育機関としての基礎が置かれた」と記しており²、札幌農学校が当初から全国的にも例外的に高い水準の農業教育を行っていたことがわかる。

さらに、『日本歴史地名大系』は札幌農学校について「明治9年に札幌学校が改称して成立した札幌農学校は日本初の高等農業専門学校」と明記している³。ここでは「高等農業教育機関」と「高等農業専門学校」という二つの表現が併用されているが、いずれも札幌農学校が単なる職業訓練校ではなく、高度な理論にもとづく近代農業の指導者養成機関であったことを指す点で一致している。

二、専門学校令と制度上の「専門学校」

一方で、「専門学校」という語が制度上の学校種別として確立するのは、1903年明治36年の専門学校令公布以後である。専門学校令は、「高等ノ學術技芸ヲ教授スル学校」を包括的に「専門学校」と定め、大学・高等師範学校・高等学校とは別個の高等教育機関として位置づけた⁴。したがって、1876年創設の札幌農学校は、年代的に見れば専門学校令制定より四半世紀以上も前に設立された学校であり、狭義の「旧制専門学校」には該当しない。制度分類だけを基準にすれば、「高等農業専門学校」という名称は、当時の法令上の正式呼称ではなかったと言わざるをえない。

ただし、明治10～20年代には、文部省系以外にも開拓使・内務省など各官庁が、それぞれの所管分野で実質的に「高等専門教育」を担う学校を設置していた。札幌農学校も、そうした官立高等専門教育機関の一つとして、東京の駒場農学校などと並び、日本の近代農業教育の黎明期を支えた存在と位置づけられている⁵。

三、教育史研究における位置づけと表現の由来

戦後、近代日本の教育制度を体系的に整理した『北大百年史』や北海道大学大学文書館の研究では、札幌農学校を「わが国における最初の高等農業教育機関」とする見解が繰り返し示されている⁶。また、日本大百科全書や歴史地名事典など、1980年代以降に編まれた代表的な辞典類も、同様の表現を採用している⁷。これらの研究・事典的整理を受ける形で、札幌市時計台の展示や観光案内では、「日本初の高等農業専門学校」「日本最初の農業高等専門学校」といったキャッチフレーズが用いられるようになったと考えられる。

ここで重要なのは、これらの表現が、1903年明治36年以降の制度用語をそのまま当時に遡及させた「誤用」ではなく、「のちに高等農林学校や大学農学部として制度化される水準の農業専門教育を、日本で最初に実現した学校」という教育史的評価を、一般向けにわかりやすく要約したものであるという点である。実際、『日本歴史地名大系』は「日本初の高等農業専門学校」と述べてつ、同じ項目内で制度沿革を丹念に追い、後に東北帝国大学農科大学、さらに北海道帝国大学へと発展した連続性を示している⁸。

四、 名誉ある呼称としての妥当性

以上を踏まえると、「日本初の高等農業専門学校」という表現は、厳密な法令上の学校種別名ではないものの、次の三点で教育史的に十分な根拠をもつと評価できる。

① 札幌農学校は、クラークらの指導のもと、農学・自然科学・人文教養を組み合わせた高水準のカリキュラムを持ち、日本の農業高等教育の先駆として機能した。これは、日本大百科全書や北海道大学関係史料によって裏付けられている²⁶。

② 創設時期の点でも、札幌農学校は「日本における最初の官立農学校」であり¹、同時期の他地域の農業教育機関と比較しても、規模・内容ともに最も先進的な高等農業教育機関であったといえる。

③ 戦後の教育史・大学史研究は、札幌農学校から東北帝国大学農科大学、そして北海道帝国大学・北海道大学への発展を一貫した系譜として描いており、日本の農学・農業教育をリードしてきた大学の「源流」として、札幌農学校の歴史的地位を高く評価している⁶⁷。

これらを総合すれば、「日本初の高等農業専門学校」という呼称は、札幌農学校を専門学校令以後の「旧制専門学校」の一つとして分類する趣旨ではなく、のちに制度化される高等農業専門教育機関の先駆として、その歴史的な名誉を強調する表現であると理解すべきである。

結論

札幌市時計台に掲げられた「札幌農学校は日本初の高等農業専門学校であった」という説明文は、制度史の観点からは、明治9年当時には「専門学校」という法令上の区分が存在しなかったという事実と、一見矛盾するように見える。しかし、日本大百科全書が「日本最初の高等農業教育機関としての基礎が置かれた」と記すように²、札幌農学校は日本で最初の官立高等農学校として位置づけられており、アジア歴史資料センターも「日本における最初の官立農学校」と明記している¹。

したがって、学術的な叙述においては、「日本初の高等農業専門学校」という表現をそのまま制度用語として用いるのではなく、「日本最初の高等農業教育機関」「日本最初の官立農学校」といった、史料に裏付けられた用語で言い換えることが適切である。それにもかかわらず、時計台の展示が「高等農業専門学校」という語を採用している事実は、専門学校令以後に成立した学校制度の枠組みを踏まえつつ、札幌農学校の歴史的な水準を現在の読者に直感的に伝えようとした試みとして理解できる。

すなわち、札幌農学校は「旧制専門学校」ではないが、その教育内容と歴史的先駆性において、のちに制度化される高等農業専門教育機関と同等以上の水準にあった。この点を明確にすることで、「専門学校」という語の制度上の意味と、教育史的評価としての比喩的用法とを峻別しつつ、北海道大学の源流としての札幌農学校の名誉を、より実証的なかたちで擁護することができる。

脚注

1. アジア歴史資料センター「札幌農学校」用語解説。
2. 小学館『日本大百科全書』「札幌農学校」の項。
3. 平凡社『日本歴史地名大系』「札幌農学校」の項。
4. 専門学校令（一九〇三年勅令第六一号）解説記事。
5. 駒場農学校・高等農業教育史に関する解説。
6. 北海道大学編『北大百年史 通説』第二章「札幌農学校の設置」。
7. 北海道大学総合博物館ウェブサイト「北大の歴史」。

参考文献一覧(例)

- ・北海道大学編『北大百年史 通説』北海道大学，一九八二年。
- ・北海道大学編『北大百年史 札幌農学校史料(一)』ぎょうせい，一九八一年。
- ・小学館『日本大百科全書 ニッポニカ』「札幌農学校」項。
- ・平凡社『日本歴史地名大系』「札幌農学校」項。
- ・文部省『学制百年史』第一編 近代教育制度の成立，各章。
- ・北海道大学総合博物館ウェブサイト「北大の歴史」「沿革」。